

図書館だより

2

vol.36

北海学園大学附属図書館報 第36巻2号(通巻208号) 2014-07-15

立ち止まって じっくり 考える

経済学部准教授 川村雅則

アルバイトーク

伊藤亜惟

夏休みに この1冊!!
『青春を山に賭けて』

コブタの
論文を
さがそう



私が薦めるこの1冊

法学部准教授 神元隆賢

立ち止まって じっくり考える

文＝川村 雅 則

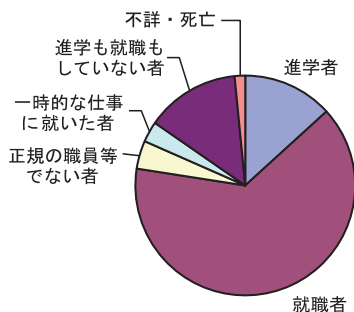
(かわむらまさのり／経済学部准教授)

経済財政諮問会議、規制改革会議、産業競争力会議、日本経済再生本部など、やたらと強そうな名前の政府機関から、この国のカタチを変える様々な改革案が矢継ぎ早に出されている。私の研究分野に限っても、「改正」労働者派遣法、「限定正社員」制度、解雇規制の緩和、労働時間規制の緩和などなど。

気になるのは、こうした各種の改革案が、内容そのものではなく、その打ち出し方——例えば、改革を阻む「既得権益」勢力を断固として排し、「岩盤規制」を打ち破るというイメージやスローガンによって、評価されがちな傾向にあることだ。決められる政治への渴望が背景にあるのかもしれない。でも、必要なのはそんな改革なのだろうか、と労働現場を訪れるたびに私は疑問に思う。

例えばわが国の非正規雇用割合は、いまや4割に(女性に限れば6割に)達しようとしている(総務省「就業構造基本調査」)。学生に人気の高い公務員の世界でも非正規は増え続け、地方公共団体ではおよそ3人に1人の割合だとされる。雇用保障がないまま彼らのほとんどが年収200万円以下で働く。

図1 大学卒業生の進路状況



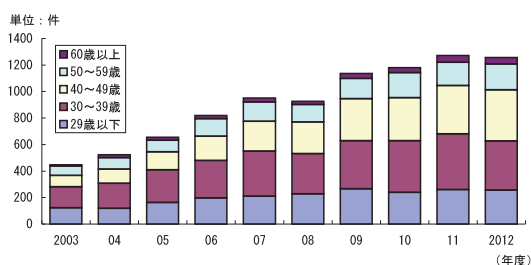
出所：文部科学省「2013年度学校基本調査」より作成。

ちなみに大学卒業生の進路状況をみると(図1)、卒業後に安定的な雇用には就いていない者(①正規の職員等でない者、②一時的な仕事に就いた者、③進学も就職もしていない者)の割合は2割に及ぶ。②③だけでかつては3割弱に達していたときから比

べれば改善されたとはいえ、それでも卒業時点で、安定雇用からこれだけすではじかれているのは構造的な問題といえよう。

就職しても安心とは限らない。いわゆるブラック企業問題——厚生労働省風にいえば、若者の「使い捨て」が疑われる企業の問題である。長時間労働を背景に就職後早期に倒れる若者が増えている。例えば図2は、精神障害の労災請求数を年齢別にみたものだ。件数の急増そして20、30歳代で半数を占めることが目につく。いわゆる過労死ラインに該当する週60時間以上働いている者が、例えば30歳代の男性ではおよそ5人に1人に及ぶこと(長時間労働の恒常化・日常化)を考えても、これらは、不幸な一部の人たちだけの問題ではない。

図2 年齢別にみた、精神障害の労災請求件数の推移



出所：厚生労働省資料より作成。

いまいちぴんとかない話かもしれない。だが例えば、みなさんが学生生活を送るこの大学という世界にも同様の問題はあ。あなたに対応してくれる職員が、仕事は恒常的なのに一年など有期で雇われていたり、何年長期で働いても昇給もないような不条理のもとで働いていたり。でも、それはわからないだろう。見えないものを見るチカラがなければ、問題は立ち現れてこない。

冒頭の話に戻る。当世、カイカクばやりで、即断即決が求められる時代である。でもそういうときこそ、何が正しいのか、立ち止まって深く静かに考えてみる必要がある。その場所に図書館はふさわしい。

図書館から、労働問題・貧困関係のお勧め図書



鎌田慧

『自動車絶望工場』 図書館所蔵：081/KO19
講談社文庫

労働関係のルポルタージュでは、もはや古典といつてよい作品。筆者がトヨタで自動車部品の期間工として労働に従事した 1972 年 9 月から翌年 2 月を日記調で記している。非人間的、超過密労働の数々。今読んでも古さを感じさせない。

なお、現在出版されている講談社文庫では、新装増補版として最新の情勢が加筆されている。

NHK クローズアップ現代取材班

『助けてと言えない：
いま 30 代に何が』 図書館所蔵：368/NHK
文藝春秋

北九州市で起きた孤独死（餓死）事件から本書は始まる。「普通」の家庭で成長し、まだ親も存命なのに、働き盛りの 30 代がなぜホームレスになっていくのか。

家族の在り方も含め考えさせられる。明日は我が身、か。

湯浅誠

『貧困襲来』 図書館所蔵：368.2/YUA
山吹書店
（現在発売しているのは人文社会科学書流通センター）

「派遣村問題」で知られる社会活動家、湯浅誠氏の著書。なぜ貧困に陥るのか、なぜそこから抜け出すことができないのかを事例を通して解り易く解説。

努力が報われない社会、弱者を切り捨てる社会はろくでもないなあ、「美しい国、日本」。(by 安倍晋三)

大山史朗

『山谷崖っぷち日記』 図書館所蔵：916/OYA
TBS プリタニカ（現在品切れ 重版未定）

大学を卒業してサラリーマンになるもドロップアウトし、山谷で日雇い労務者として暮らす日常を綴った作品。教養溢れる文章で淡々とかけられる日々の生活、諦念感漂う世界がなぜか心地よい。他 3 作と違い、労働・貧困を社会告発する内容ではない。2000 年開高健賞受賞作品。

しかし、高度成長期以前の人たちは力持ちだ。セメント袋の話は圧巻である。

角川文庫で出版されていたが現在は品切れ重版未定。復刊を望む。

私が薦める
この 1 冊

宇野義方・日高晋・西原春夫・蓮見音彦著

『短文・小論文の書き方』

（有斐閣新書、1978 年）

文＝神元隆賢

（かんもと たかよし／法学部准教授）

期末試験は、大学生にとって憂鬱なイベントであるが、出題者である大学教員にとっても極めて憂鬱なイベントであるとの主張に、賛同される同僚諸兄は多いのではないか。大学生は 1 枚の答案を作成すれば良いが、教員はそれを数百枚、採点基準がぶれないように一気に採点し、しかも試験後の成績照会に対して丁寧に説明できるよう、評価の理由も朱で記入しなければならないのである。このような状況で、悪文であったり理論構成が稚拙な答案に直面すると採点のテンポは乱れ気力も削がれるが、良い答案に直面したときの心地よさは格別である。

本書は、大学教員の視点から、文学、経済学、法学、社会学の各分野別に、良い答案と悪い答案を比較して答案構成の技術、基礎的ルールを説明

する文書作成の解説書である。私も大学生の時にお世話になった古い本だが、現在でも入手は容易である。授業の内容は理解しているが期末試験の結果がふるわないという学生は、本書を一読すべきである。本書記載の技術を習得することで、あるいは評価が良い方に激変するかもしれない。

「法律学的思考は、コンピューターのようなであることが望ましい。……最優秀の答案に出くわしたとき、坦々たる自動車道路をスポーツカーで突っ走るときのような小気味よさを感じるのは、この電気経路がピタリとあるべき回線を通っているからであろう。」

本書の法学パートの一文である。教員側の視点を、学生が知っておいても損はない。

A 「えー、今回は「夏休みに この一冊!!」ということでオスメの本を紹介したいと思います。『青春を山に賭けて』植村直己さんの本です。Bさんはこの本を読んだのはいつ頃でしたっけ?」

B 「初めて読んだのは去年なんです。きっかけはAさんに植村直己さんの本を勧められて」

A 「えっ、そうでしたっけ? ウーム憶えてないなあ……」

B 「で、何冊か読んだんですけど、この本が一番面白いですね」

A 「私はねー、大学の時に読みました。好んでいえば、他にも好きなのはありますが、何せ、この本の植村さん、若いじゃないですか。20代の時の本ですからねー」

B 「そうですね、やはり勢いがあるし、冒険の内容もいろいろですよ。アルプスやアフリカ、アンデスの山に登ったり、アマゾン河を手製のイカダで下ったりと」

A 「いろいろあって飽きないですよ」

B 「読んでいてついつい引き込まれていくのは文章の上手さも大きいですし、また冒険も順風満帆じゃないですよ。登山しようにも地元警察からなかなか許可がでないとか」

A 「あとね、この本に出てくる人たちが皆いい人なんだよね」

B 「植村さんも言っていましたね。世界各地を周ったけど悪い人はいないとか」

A 「そんなことないだろう（笑）。でもそれは植村さんの人柄が良いからじゃないかと思うんですけど」

B 「植村さんが不世出の冒険家だ、などといわれていますが、それは物凄く高度な技術だとか経験だとかより、熱意や思いを人に伝え、協力を得られるような資質をもっているところですよ^{※1}」

A 「うん。何冊か植村さんに関する本を読んだんですが、冒険の方法論の批判はともかく、人柄に関して悪く言っているのは見たことがないです。というより、本当に性格が良くて周りから愛されているんですよ。毀誉褒貶が多い登山家の●●とはえらい違い（笑）」

B 「（笑）僕、一番最初に読んだのは本人ではなく他人が書いた伝記のようなものだったんですけど、確かエベレスト登頂の国際隊でインド人が亡くなって、わざわざインドまで出向いて行って、その人の家族に遺骨や遺品を届けたとか。でも、本人の執筆したこの本にはでてこないですね^{※2}」

A 「テレ屋さんだから、そういうようなことは書かないだろうけど、わりとそういう逸話が多いですよ。本書では、大学を卒業して船でアメリカに渡ります。で、そこで働きながら、更にヨーロッパへ行くわけですが、そこでスキー場の支配人の好意によりそこで働く、と」

B 「そこは重要ですよ。その支配人さんがいたからこそ仕事ができ、そこを拠点としてヨーロッパの山々に挑戦することができましたから」

A 「植村さんはスキーがさほど上手くはないのに、「私はグッド・スキーヤーだ」とか言ってとりあえず10日あまり試験採用になるんだけど、その間他の人の倍は働きます。で、結果一緒に試験採用になった人は、まあ身体より口を動かすチャラ男で不採用になり、植村さんが採用になる。素直で一生懸命なところが評価されたんでしょうね。ちなみに、その支配人は冬季オリンピックの金メダリストで、最初から植村さんが「グッド・スキーヤー」ではないと見抜いていたのでは、と」

B 「そのスキーも後々は地元の大会で入賞するくらいに上達したみたいですね」

A 「基本、努力家なんですよ」

B 「若い頃は出たとこ勝負、というかアメリカに行くときも、帰りの船賃もなく110ドル（1964年当時約4万円）だけを握りしめて、泊るあてもない中出発してますし」

A 「もしかしたら、若さと、あとスポンサーの絡みもないから自由ノビノビと行動ができた、その雰囲気の本からもでているのかなあ」

B 「本書にもいろいろな冒険がありましたけど、どのあたりが一番印象に残っていますか?」

A 「みんなそれぞれ面白いんだよね。場面でいえばね、節約のためクリスマスでも一人部屋で質素な食事をしていたとか、コーヒー、酒を断っていたとかストイックなところがいいなあ。ちなみにBさんは?」

B 「強いて言えば、アフリカの話ですかねー。ケニヤ山とキリマンジャロ。最初警察から、道も悪いし豹なんかの猛獣もいるからやめておけと言われるんだけど、散々悩んだ挙句にやるかどうかは自分自身で体験してから決めることにするんですね。その時に現地の若者をガイドとして一人雇うんですが、それがまた実に頼りない男で（笑）」

A 「しょうもないガイドでしたね（笑）。しかし、若くて夢があるってのはいいな。やっぱり本に限らずどんな作品でも、それに合った年頃ってあると思うんですよ。確かにあとから読み返したら、こういう見方もあるのか、とか思ったりもするんだけど、一番共感できる年齢でふれることが一番純粋に楽しめると思うんだ。そういった意味でも、この本を今学生である19～20代前半の人に、読んでほしいですね。では、もうそろそろ、まとめとして何か一言」

B 「言葉やお金が云々とか、いろんな不安材料で冒険を諦めるのではなく思い切って一歩を踏み出す、と。責任は取りませんが（笑）。学生時分にはたくさん時間があります。今このチャンスを逃してしまったら、あの時こうしておけばよかったな、と思いますからね。そんな時にこの本が何かの指針になればと思います」

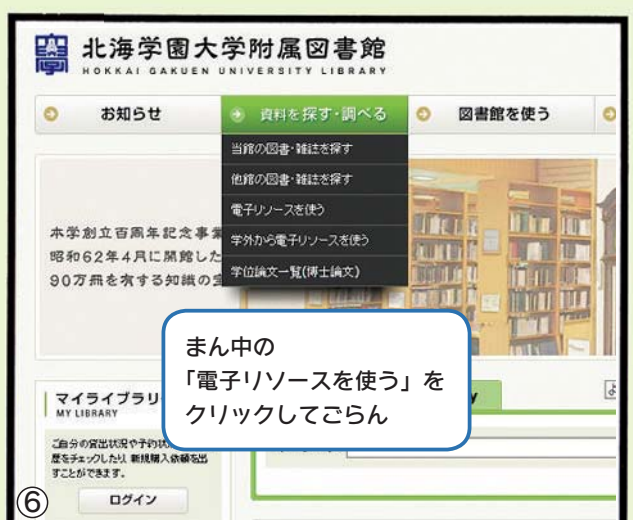
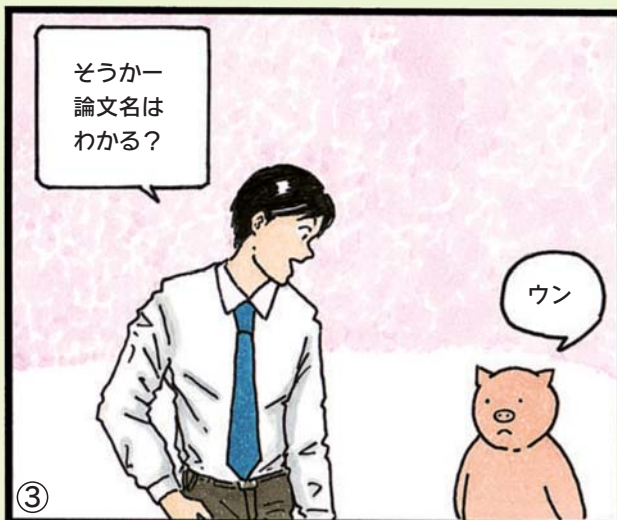
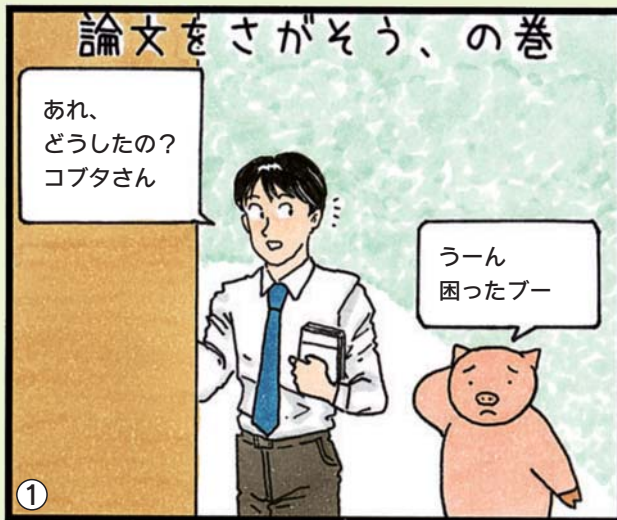
A 「えー、せっかく長い夏休みなので、この本に限らず何か思い出に残る本を一冊読んでいただきたいですね」

A・B 「では、よい夏休みをお過ごしください」

※1 「植村が、行く先々で人に恵まれてきたのは事実である。最初の無銭旅行で、強制送還されかけたときに助けてくれた日系アメリカ人の通訳、フランスで雇ってくれたスキー場経営者……。『もし、あの人たちがめぐり合わなかったら、どうなっていたことやら』と述懐する。長年の夢だった南極入りに、アメリカ基地の支援を得るための工作では、結果は実らなかったが、エドワード＝ケネディ上院議員やマンスフィールド駐日大使までが骨を折った。78年の北極点単独行の前、植村に自分の位置を測定する天測を手ほどきした西堀栄三郎は「頭が下がるほどのまじめな努力。そしてあの謙虚さ。人間性にほれてしまう」。これほど愛される人間も珍しい。」（『スポーツ界別伝』朝日新聞社）

※2 1980年エベレスト遠征の際、シェルパが凍傷を負い、治療ミスのため死亡してしまった。このシェルパは保険に入っていなかったため、植村氏の自腹で保険金相当額を弟に渡した。また、別なシェルパは凍傷で指を切断し、シェルパとしての活動が断たれたため、保険金とは別に相当な金額を個人的に渡し、なおかつネパールに事務所を持つ旅行会社に就職の依頼までしていた。（『エベレストを超えて』文春文庫 あとがき【土肥正毅】）

コブタの論文をさがそう



資料を探す・調べる

電子リソースを使う

北海道大学附属図書館では、国内外を問わず Web上で手軽に検索ができるようになっています。

アルファベット順一覧

判断/法情報を探す

大学 学内のネットワークから利用できます。
館内 図書館内のPCブースで利用できます。
フリー どこからでも利用できます。

アルファベット順(A~G)

蔵書1000000

朝日新聞記事データベース
1984-Current[開蔵II]

beck-online
DIE DATENBANK

CAMBRIDGE BOOKS ONLINE
Cambridge Books Online(CBO)

7 CiNii Articles

大学で契約しているデータベースの一覧がでるんだ
論文検索にはCiNii(サイニイ)Articlesというデータベースを使うよ

1984-Current[開蔵II]

ちなみに右側の赤く「学内」となっているのは大学内と、設定すれば家のパソコンからでも使えるんだ
設定は、「学外から電子リソースを使う」をみてね

【外部接続不可】

EBSCOhost

紫の「館内」は、ID/PWがあるので、図書館内のパソコンでのみ検索できるよ

8 eol

CiNii 日本論文さがす Articles

論文検索 著者検索 全文検索

論文検索

ポスト・ミレニアム開発目標と不平等

検索結果: 1件中1-1を表示

新しいウィンドウで開く 実行 すべて選択

ポスト・ミレニアム開発目標と不平等
春日 秀文
関西大学経済論集 = Economic review of Kansai University 63(3・4), 331-354, 2014-03

9

検索窓に論文名を入力して検索をクリックしたら……

論文検索 著者検索

論文検索

ポスト・ミレニアム開発目標と不平等

検索結果: 1件中1-1を表示

新しいウィンドウで開く 実行 すべて選択

ポスト・ミレニアム開発目標と不平等
春日 秀文
関西大学経済論集 = Economic review of Kansai University 63(3・4), 331-354, 2014-03

10

この画面に切り替わるから次に論文名をクリックするんだ

論文検索 著者検索 全文検索

論文検索

ポスト・ミレニアム開発目標と不平等

The Post-2015 Development Agenda and Inequality

春日 秀文

この論文を読むがす

NDL-OPAC NDL-OPAC - 国会図書館蔵書でさがす

CiNii Books CiNii Books - 大学図書館でさがす

収録刊行物

関西大学経済論集 = Economic review of Kansai University
関西大学経済論集 = Economic review of Kansai University 63(3・4), 331-354, 2014-03
関西大学経済学会

11

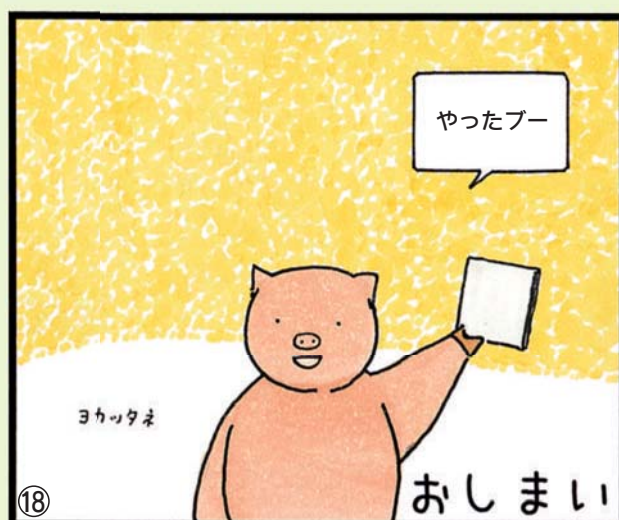
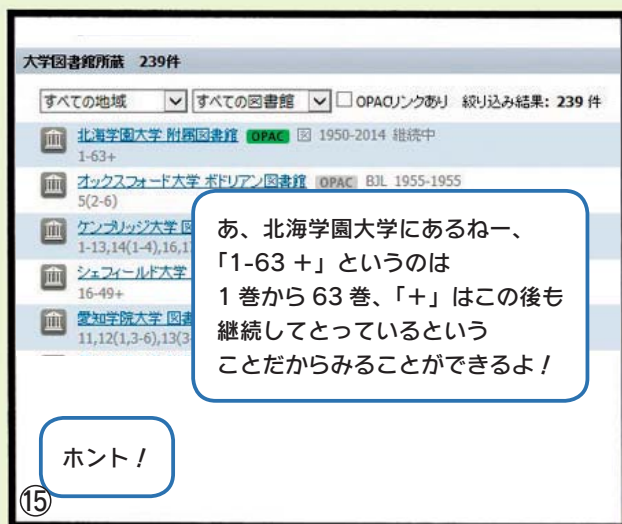
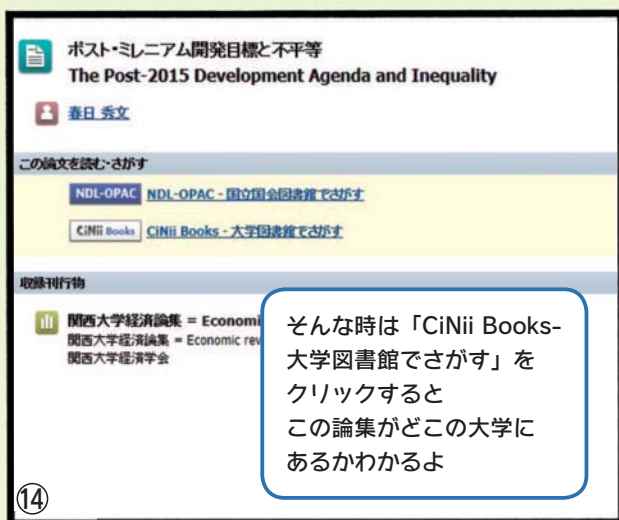
論文の詳細がわかるよ

収録刊行物

関西大学経済論集 = Economic review of Kansai University
関西大学経済論集 = Economic review of Kansai University 63(3・4), 331-354, 2014-03
関西大学経済学会

この論文は
関西大学経済論集の
「63(3・4)」は63巻3・4号、
「331-354」は331ページから354ページに掲載されていて
「2014-03」は2014年3月に刊行されている、
ということがここでもわかるんだ

12



※ 探している資料が本学にない場合は、所蔵している大学等図書館から取り寄せることもできるヨ。
そんな時はレファレンスカウンターに申し込んでネ。



アルバイトーク

変化を楽しみましょう

文＝伊藤 亜 惟 (いとう あい／大学院 経済学研究科 2 年)

こんにちは。

これからやってくる夏を如何お過ごしになりますか。

さて、この場をお借りして若輩者ですが、私なりに大切なことだな、と感じることをお伝えしたいと思います。

皆様、これから「挑戦したいこと」が沢山あるかと思えます。

是非とも行動を起こし、挑戦してみてください。

財政的に難しい、時間が無い、など現実的な側面で躊躇することもあるでしょう。

ただ、行動しなかったことで後悔することって何だか勿体ない気持ちになりませんか。

難しい、出来ないと思うことを乗り越える、出来る様に工夫することも大切かもしれません。

行動して成果が出ると自分の成長に繋がりますよね。たとえ失敗しても、その失敗も勉強になります。失敗を恐れずに、どんどん挑戦して自分の変化を楽しんでください(よくある台詞になりますか)。

もう一つ、人との出逢いは大切です。

多くの人と出逢い、交流を重ね、知ること、触発され

て貴方の考えや行動も変わってくるかもしれません。人生の分水嶺となる出逢いもあるかもしれません。

馬が合わない人との出逢いもあるでしょう。しかし、違う価値観を持った人を理解しようとする、受け入れることも大切なことです。

私は、ある方とお逢いして人生には沢山のチャンスがあることを教わりました。それからは、考え方や行動も変わりました。

自分にとり色々な側面でプラスになる、そんな大切な人に出逢えると良いですね。

人生一度きり。今は、将来の自分に対する投資の時間だとすれば、沢山のことを吸収してください(本は知識の宝庫ですよ)。

疲れたなと感じた時は、ほんやりするといいかもしれませんね。

取り留めの無い内容で恐縮ですが、お読みくださりありがとうございます。

皆様にとりまして、素敵な夏になりますように。

図書館からのお知らせ

図書館本館 施設改修工事について

工事期間 平成 26 年 8 月 8 日(金)～平成 26 年 9 月 30 日(火)

上記の期間、図書館本館の施設改修工事(1～3 階)に伴い、図書館資料及び設備に以下の利用制限がかかります。

① 1 階自由閲覧室は使用できません

新聞の閲覧、閲覧席での自学自習はできません。

② 2 階及び 3 階閲覧席は使用できません

2・3 階の閲覧席での自学自習、情報検索用パソコン 15 台、視聴覚ブース 11 台の利用はできません。

蔵書検索(OPAC)パソコン 1 台、データベース用パソコン 1 台、コピー機(現金)1 台は利用できます。

③ 資料の貸出・返却は可能です

2 階サービスカウンターは午前 9 時～午後 10 時まで利用できます。一部資料(3 階西側書架・参考図書書架等)は利用できませんが、開架・閉架資料は利用可能です。

工学部図書室 閉架書庫改修工事について

工事期間 平成 26 年 8 月 9 日(土)～平成 26 年 8 月 23 日(土)

上記の期間、閉架書庫改修工事のため工学部図書室は閉館します。閲覧、貸借を含め一切の利用はできません。

両工事とも、館内掲示を使用し、工事期間中の利用についてご案内しております。ご確認ください。

工事期間中、利用者の皆様には大変ご迷惑をお掛けしますが、ご了承ください。

編集後記

最近、図書館 3 階の AV ブースで見かけるのですが、映画を見ながらスマートフォンを操作している学生さんがいます。しかも結構な割合で。他の人に迷惑をかけているわけではないので一向に構わないのですが、話しの筋とか理解できるのかな？

なお、この号を発刊するにあたり、御多忙の中、快く執筆を引き受けていただいた川村先生、神元先生、伊藤さん、また図書館職員の御協力に感謝致します。

長い夏休み(の前に定期試験がありますか)、充実した時間を過ごせますように。

皆さまからの、本冊子に対するご感想を下記のアドレス宛にお寄せください。今後の内容充実のために活用させていただきます。

なお、お寄せいただいたご意見・ご感想についての回答はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

✉ lib@tyhr.hokkai-s-u.ac.jp

北海学園大学附属図書館報 図書館だより 第 36 巻 2 号 (通巻 208 号)

本館 〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 工学部図書室 〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目1番1号
TEL (011) 841-1161 印刷所:(株)アイワード